



4乗員組合ストライキ決行

4乗員組合（エアーニッポン乗員組合、エアーセントラル乗員組合、エアーニッポンネットワーク乗員組合、エアーネクスト乗員組合）は、今春闘において「民間航空の安全と健全な発展を守る要求」を掲げ、「格差是正」の闘争方針のもと全日空経営と交渉を続けてきましたが、3月17日夜になっても経営は要求に正面から回答することを拒絶し、4乗員組合は航空の山場である3月18日に24時間全面ストライキを決行しました。

4乗員組合は今春闘、滑油の搭載量確認を省略できるまでに改悪された、ボンバルディア機の「飛行間点検なし」（ER ゼロ）問題、また勤務協定もない劣悪な条件で働いている乗員もいるという、「勤務格差」問題に重点的に取り組んできました。加えて4乗員組合は、健全な乗員養成と労働条件向上のため、「垣根のない乗員養成」（能力に応じた機種間、会社間の乗員異動）に長年取り組んできましたが、こともあろうに経営はこの労働条件整理の約束を反故にし、グループ内の労働条件格差は放置されたままになりました。

4乗員組合は、このような著しい格差と差別に依存したANAのグループ経営に対抗し、職場と人心の荒廃を防ぎ、ひいては航空の健全な発展と運航の安全を守り抜く決意で団結しています。

<3月18日ストライキ決行に対する4乗員組合見解>

4乗員組合は、粘り強く長年交渉をつづけてきた。全日空経営は、我々の要求に一部理解を示すもののグループ経営を、我々の「健全かつ公平な乗員養成体制」に変更することをかたくなに拒否しつづけた。運航乗務員のみならず、グループで働く者のやる気や安全運航の是正についての真摯な要求を拒絶し続けた。このことを、我々は、断じて許すことはできない。健全なグループ運営を求める子会社の一部の努力をも、全日空経営本体は踏みにじったと判断せざるを得ない。現行の経営判断を早急に是正することを強く求める。

労使協定を反故にする全日空経営の行為は、4乗員組合の長年の想いを根底から覆すものである。このような、ストライキを打たせる全日空経営の行為は許せない。

4乗員組合は、「安全運航の確保」と「民間航空の健全な発展」を確保するため整然とストライキに突入することを決断する。全日空経営は早急に、労使関係の修復に努め、再回答に応じるよう改めて交渉継続を強く求める。

日乗連は、グループ内の乗員組合が結集し団結しながら経営に回答を迫る、4乗員組合の今回の争議行為を全面的に支持します。そして乗員の労働条件の向上のため一層の組織強化を目指し、ひいては民間航空の安全を守り、その健全な発展を促進するための運動を展開していきます。